

平成30年度

# 遊びから学ぼう ワークショップ

—開催結果—

平成30年10月

世田谷区教育委員会事務局

# 目次

<b>1.概要</b>	<b>2</b>
(1) 開催日時・会場	2
(2) プログラム	2
<b>2.ガイダンス</b>	<b>3</b>
<b>3.ワークショップの記録</b>	<b>5</b>
(1) 基調講演	5
(2) グループワークの進め方	13
(3) グループワークの記録	14
(4) 投票	25
(5) 講評	27

# 1.概要

## (1) 開催日時・会場

日 時：平成30年9月25日（火） 13：30～16：30

会 場：若林小学校 家庭科室

## (2) プログラム

13：30（15分） 開会

挨拶 世田谷区教育委員会教育長 堀 恵子  
ガイダンス 新教育センター整備担当課長 増井 賢一

13：45（30分） 基調講演 「遊びを通しての学びの環境づくりに向けて  
～イタリアのレッジョ・エミリア市の乳幼児教育を通して～」

鶴川女子短期大学国際こども教育学科 森 眞理 教授

14：15（15分） ～休 憩～

14：30（85分） ワークショップ（4グループ）

Q1 こどもの「遊び」って、どんなこと？

Q2 こどもの「遊び」を実現するために、  
どんなことが必要？ どこから始めればいい？

Q3 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ、  
残しておきたいこと2つ

15：55（25分） 発表 / シール投票

16：20（10分） 講評

16：30 終了

## 2. ガイダンス (ワークショップ開催趣旨)

### (1) 世田谷区の幼児教育

世田谷区教育委員会では、第2次世田谷区教育ビジョン(平成25年3月策定)の基本的な考え方として「一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばし、社会をたくましく生き抜く力を、学校・家庭・地域が連携してはぐくむ」としています。「生き抜く力」や「生きる力」は、変化する社会のなかで、自ら課題を見つけ、学び、考え、他人と協調し、思いやりながら、生涯にわたって主体的に生きようとする力です。こうした「生きる力」を乳幼児期から身につけることが重要であると捉え、幼児教育・保育推進ビジョン(平成29年7月策定)では、「子どもが様々な経験を積み重ね、興味・関心を広げながら、『生きる力』の基礎を身につける」ことを目標に掲げ、次の5つを乳幼児期に育む力として示しています。



## (2) 教育総合センターの整備

乳幼児期からの教育・保育の推進をはじめ、教育研究・研修や総合的な教育相談など世田谷区の質の高い教育を推進する拠点として、現在の若林小学校の場所に「教育総合センター」を新たに開設します。(平成33年(2021年)開設予定)

開設までの期間では、乳幼児教育の推進に向けて、教育総合センターの交流ゾーン(室内)や広場(室外)の連携した活用をめざし、実際に利用する教員・保育者、保護者や地域の方等に参加いただくワークショップを継続的に開催して、皆さんと一緒に考えていきます。

### ○交流ゾーンのイメージ

- ・未来の世田谷の教育を発信する魅力的な空間
- ・区民が気軽に訪れ、世田谷区の教育に関する情報・資料等にふれる場
- ・未就学・未就園の親子が、世田谷の教育を知る場
- ・ミニイベントなどをおし、賑わいを創出し、区民が世田谷の教育に参加・参画する場

### ○広場のイメージ

- ・乳幼児期を始め、子どもに必要な外遊びの場
- ・健やかな心と体づくり、遊びをとおした学び、体験・体感の場の提供

そこで、「遊びから学ぼうワークショップ」の第1回目では、「乳幼児期に大切にしたい遊びを考える」をテーマに、取り組みやアイデアを皆さんで共有し、交流ゾーンや広場の整備に活かすとともに、参加された皆さんが、幼稚園・保育所などのほか、家庭や身近な場所での活動に活かされることを期待しています。



## 3.ワークショップの記録

### (1) 基調講演

「遊びを通しての学びの環境づくりに向けて

～イタリアのレッジョ・エミリア市の乳幼児教育を通して～」

鶴川女子短期大学国際こども教育学科 森 眞理 教授

#### 基調講演の概要

- 1) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」改訂の背景には、世界の幼児教育をめぐる動向の影響がある。
- 2) これからの時代を生きる子どもたちに育みたい力として、「グローバル化」「人工知能化時代」「多様性、多元性、多文化」の世界の動きを踏まえ、21世紀型スキル・コンピテンシー（教養/能力）の育成が求められている。
- 3) 乳幼児期の教育は、人格形成と学びの基礎形成。これまでの学びを変えていく必要がある。①「暗記型」⇒「活用型」（主体的な学び）②「記憶型」⇒「展開型」（対話的な学び）③「結果主義」⇒「過程主義」（深い学び）。
- 4) 子ども観のパラダイムシフト（価値間の転換）。乳幼児期観は「就学準備期」から「生活重視・尊重型」へ。
- 5) レッジョ・エミリアの子ども観。子どもは、①主人公である：権利の主体である②可能性に溢れている③有能である④研究者である⑤市民である（子どもたちの100の言葉の根幹）。
- 6) 子どもの成長と学びの軌跡である「ドキュメンテーション」で、どんなことをしているのか分かりやすく伝える。
- 7) 世田谷区のこれからに向けて、①子どもも大人も主人公②子どもは市民③遊びを通しての学びの可視化（見える化へ）。

◆配布資料（6ページ～12ページ）

## 遊びから学ぼうワークショップ

「遊びを通しての学びの環境づくりに向けて  
～イタリアのレッジョ・エミリア市の乳幼児教育を通して～」

2018(平成30)年9月25日(火)13:45～14:15

森 眞理  
(鶴川女子短期大学 国際こども教育学科 教授)

### 本日の話しのポイント

- なぜ、今、レッジョ・エミリアなの？
  - 日本と世界の乳幼児教育・保育の動向との対話から
- レッジョ・エミリア市の概要
- レッジョ・エミリア市の乳幼児教育から：
  - 乳児保育所のプロジェクトオーナーに着目して
- 世田谷区のこれからに向けて
  - 「一人一人」子どももおとなも、誰もが遊びと学びの主人公へ

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」改訂の背景には？



世界の幼児教育をめぐる  
動向の影響が・・・



## 世界の動き：これからの時代を生きる子どもたちに育みたい力

### ◦ グローバリゼーション

- 政治・経済・文化などが国境を越えて地球規模で拡大すること（三省堂「大辞林」<https://www.webl.io.jp/content/>）

### ◦ 人工知能化時代

- AI(Artificial Intelligence) 計算機(コンピュータ等)による知的な情報処理システム) 一定のルールに従って反復作業をこなすのではなく、作業の実行や観察を通して新たなやり方を学習することにあります。つまり、AIには、当初設定されたプロセスを向上させる目的で主観的判断を行う能力があるということ。

### ◦ 多様性：多元性・多文化

- 人種・民族・宗教・身体性・言語等々の多様性との関わり

↓ ↓ ↓  
**21世紀型スキル・コネクティブ(教養/能力)の育成が求められている！**

## 乳幼児期の教育＝人格形成と学びの基礎形成

### ◦ 暗記型

### ◦ 記憶型

### ◦ 結果主義



・ 活用型 主体的な学び

・ 展開型 対話的な学び

・ 過程主義 深い学び

Gutman, L.N., & Schoon, I. (2013). The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people. Education Endowment Foundation.

文部科学省 「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究～感性・表現の視点から」『平成27年度 文部科学省 「幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」いわゆる「非認知的な能力を育むための効果的な指導法に関する調査研究」2016年。

## 世界で注目されている非認知的能力(スキル)

### ◦ 認知的能力

(数量で測れる)

- IQ
- 数字がわかる
- 文字が読める・書ける

5才児 2016年10月



認知的能力  
IQなどで測れる力

世界で注目される  
非認知的能力って?



非認知的能力  
測れない力

### ◦ 非認知的能力

(数量で測れない/にくい)

- 目標に向かっていく
  - 「忍耐」「自己抑制」「情熱」
- 他者と協力する
  - 「社会性」「敬意」「思いやり」
- 情動を抑制・調整する
  - 「自尊心」「楽観性」「自信」

<https://www.sokusuku.com/contents/qa/143200>

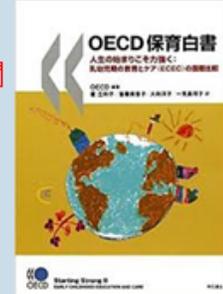
## 2. OECD と 21 世紀型新しい知・幼児教育の捉え方

### ○ OECD(経済開発協力機構)

乳幼児教育に関心を抱き調査・研究をスタート  
(1990年代後半～)

○ 「なぜ、国際経済について協議する OECD のような機関が乳幼児の保育・教育問題に強い関心を寄せたの？」

○ 乳幼児期の保育・教育への公的投資が社会的・経済的に極めて有効な政策手段であることが、子どもの発達を長期にわたって追跡調査する縦断研究で実証的に示されてきたこと。



## Starting Strong II 調査・研究2006年～

### (生まれた時から力づく) 10の政策提言

- 1) 乳幼児の発達を取り巻く社会的な状況に留意すること
- 2) 乳幼児教育保育 (ECEC) 事業では子どものウェルビーイング、早期の発達、学習を (目標) の中核に据えること、その場合、**子どもの主体性と子ども本来の学習方略を尊重**すること
- 3) 制度のアカウントビリティと質の保障に必要なガバナンスの構造を構築すること
- 4) 全てのECECのサービスにあう大まかな指針とカリキュラム基準を、ステークホルダーと協力して開発すること
- 5) 高い質の教育目標を達成することに基礎をおいたECECへの公的資金の概算を作ること
- 6) 財政・社会・労働政策によって子どもの貧困と社会からの排除を食い止め、減らすこと
- 7) **乳幼児のためのサービスに、家族やコミュニティが参加できるように促すこと**
- 8) ECECに従事する職員の労働条件と専門職を改善すること
- 9) **乳幼児のためのサービスに対して、自律性を認め、資金調達し、支援をすること**
- 10) **ECEC制度が、幅広い学びと人々の参加、民主主義の実現のための支えとなること**

## 教育学的アプローチの二分化

### 3. 子ども観のパラダイムシフト (価値観の転換)

乳幼児期観	就学準備期 (学習/人生)	生活重視・尊重型 今を生きる (その時期自体が意味をなす)
乳幼児教育保育実践展開	成功のための準備教育	一市民としての参加型・プロセス重視教育
実施国	USA, UK, 韓国	NZ, 北欧諸国 <b>イタリア (レッジョ・エミア)</b>

## レッジョ・エミリア市 (イタリア)の乳幼児教育との対話から



イタリアのエミリア・ロマーニャ州(北部)  
(モデナとパルマの間)

通常急行：ミラノまで1時間、ローマまで4時間  
→(現) 高速鉄道停車 (ミラノまで約40分、ローマまで2時間強)

人口：171,655 (M 83,279; F 88,376) (2001年約14万人/2010年約16.5万人) 出典：Ms. Luca Vecchi, the

Mayor of City of Reggio Emilia 2017. 2. 20

(うち2016年16%イタリア外国籍：

アルバニア2.06%、モロッコ1.81%、中国1.58%)

社会・経済：

(旧) 産業：製造業(工場)・農業中心

→(現) 研究・開発 (病院・教育施設)

◦人口のうち 0~5歳 5.7%

◦(日本は5.0%：2016年5月)

◦就園率：

◦乳児保育所 43.95%

(1631/3711人)

(イタリア平均17%、欧州平均33%)

◦幼児学校 90.24% (4477/4961人)

◦(住民登録の子どものうち：自治体立・私立・共同体立含)

◦出典：Reggio Children Int' l  
Network meeting 2018. 2. 19.

◦乳幼児教育への歳出：

◦市の予算の15-16%

### 幼児教育の変化

◦乳児保育所 (0-3歳) 12

◦幼児学校 (3-6歳) 21

◦(乳児保育所/幼児学校 (0-6歳) 10)

◦幼児学校/小学校 1 (2017年2月現在) [参照：13乳児保育所・21幼児学校 (2001年)]

◦(旧) 乳児保育所と幼児学校

→(現) ・乳児+幼児教育保育施設

・小学校への連続性

(出典：Ms. Luca Vecchi, the Mayor of City of Reggio Emilia 2017. 2. 20)

## レッジョ・エミリア市 概要

肥沃な土地・レジスタンス・共同体

『NEWSWEEK』1991年12月

子ども観：市民としての子ども・100の言葉を有する子ども

乳幼児教育観：

権利としての教育、平和の道としての教育

誰もが主人公(当事者)：ペダゴジスタの役割

アート：アトリエとアトリエリスタ (幼児学校常駐)

プロジェクトツォーネ

参加・対話・遠隔の具現化・思想と行動の一体化

ドキュメンテーション：

子どもと共にある成長/学びの軌跡・保育者の方略地図

街ぐるみで子どもを育てる：

交通規制、アートギャラリーとしての街並み(自転車)、

REMIDA(DAY)、REGGIONARRA、

市民による乳幼児教育保育施設命名



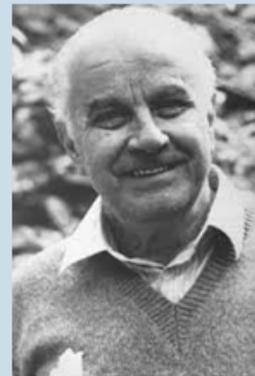
## 根幹となる「乳幼児教育保育観」

- ・教育はすべての人、すべての**子どもの権利**であり、  
それは**コミュニティの責任**である」
- ・「教育は**個人の成長と解放**の機会である、すなわち、知識を得ることと共に、生活するための学びの資源であり、**自由と民主主義と連帯**が実践され、**平和の価値観**が促進される出会いの場である。」

レッジョ・エミリア編、森真理・渡邊耕司和訳  
『レッジョ・エミリア自治体の幼児学校と乳児保育所の指針』Preschools and infant-toddler centres Municipality of Reggio Emilia. , 2014年

Loris Malaguzzi の「子ども観」：  
子どもたちの100の言葉の根幹

- ① 主人公 である：  
権利の主体である
- ② 可能 性に溢れている
- ③ 有能 である
- ④ 研究者 である
- ⑤ 市民 である



Loris Malaguzzi

森真理 『レッジョ・エミリアからのおくりもの』 フレーベル館、2013年。

- でも、百はある**
- ・子どもには 百とおりある。  
子どもには  
百のことば 百の手 百の考え 百の考え方 遊び方や話し方  
百いつでも百の聞き方 驚き方 愛し方 歌ったり  
理解するのに 百の喜び  
発見するのに 百の世界  
発明するのに 百の世界  
夢見るのに 百の世界がある  
子どもには 百のことばがある  
…それからもっともっともっと…
  - ・けれど九十九は奪われる  
学校や文化が  
語とからたを バラバラにする
  - ・そして子どもに言う  
手を使わずに考えなさい  
語を使わずにやりなさい  
話さずに聞きなさい  
ふざけずに理解しなさい  
愛したり驚いたりば 復活祭とクリスマスだけ
  - ・そして子どもに言う  
目の前にある世界を発見しなさい  
そして百のうち 九十九を奪ってしまう
  - ・そして子どもにいう  
遊びと仕事  
現実と空想  
科学と想像  
空と大地  
道理と夢は  
一緒にはならないものだ
  - ・つまり百なんかないという
  - ・子どもはいう  
**でも 百はある**
  - ・ ローリス・マラグッツィ
  - ・ (田辺敬子 和訳)

## プロジェクトツィオーネ（プロジェクト）

- プログラム（予め決まった内容/既成のカリキュラム）に**相反**する用語
- プロジェクトツィオーネは、グローバルで柔軟性のあるアプローチ、子どもやおとなの**興味や関心**から、**仮定**を構築しつつ**探求**する**過程（プロセス）**。活動を展開していくうちに**変容**することがある
  - 「木」の**成長過程**（根っこから幹、枝、小枝、花と枝分かれ）をプロジェクトツィオーネの**メタファー（隠喩）**として
  - 「直線的」「結果」「知識取得」に「異！（NO）」を呈する

## ドキュメンテーション：子どもの成長・学びの軌跡

- ドキュメンテーションは、教育的な理論と教育実践の統合的構造的部分であり、子どもたちとおとなたちの**個人的集団的学びのプロセス**の本質に明確で、**可視的**で、**評価可能**であることに価値を与え、観察手段によって示されたプロセスであり、**共有財産**となる。
- 乳児保育所と幼児学校において、明らかにある教育的経験は、ドキュメンテーションとして再訪され、再構築され、最重視され、評価され、すなわち**異なった視座の貢献と共に交換される中で解釈**され、進歩として生み出された時、最も十分な意味を持つとみなされる。
- 「**公の場**」として捉えられることにより、ドキュメンテーションは、**民主的プロセス**の手段として輝きを放つ子ども時代の文化と教育の広場としての幼児学校と乳児保育所という考え方を具現化する。

乳児保育所の  
プロジェクトツィオーネ  
（プロジェクト）  
「公園は・・・」



## なぜ、私たちは レッジョ・エミリア市の乳幼児教育に着目するのか？

- 「教育は全ての人、子どもの権利」と表明し、子どもを敬愛する市民として捉え、子どもの発見・驚き・疑問に保育者を始めおとなが目と耳を傾け生活文化を創造
- とことん子どもに聴き入ること・聴き合う関係性・対話  
⇒ 「子どもの100の言葉」
- 狭義のアート⇒生活すべてがアート
- ⇒ 平和への創造
- 閉ざされた保育空間から開かれた（街）保育空間：  
⇒ コミュニティ・プロジェクトとしての実践へ

## 世田谷区のこれからに向けて

- 子どももおとなも主人公
  - 子どももおとなも面白い生活へ
  - 参加・対話・連帯(繋がる)のある生活へ
- 子どもは市民！
  - 子どもの100の言葉を大切に（聴き入ることから）！
- 遊びを通しての学びの可視化（見える化へ）
  - 子どもの姿がみえる環境づくり（「三間」（時間・空間・仲間/人間）の向上）！
  - ドキュメンテーション・センターとしてのセンターづくりへ

## 引用・参考文献

- G. エドワーズ他 佐藤学・森真理・塚田美紀訳『子どもたちの100の言葉ーレッジョ・エミリアの幼児教育』世織書房、2001年。
- Cagliari, P, Castagnetti, M, Giudici, C., Rinaldi, C., Vecchi, V & Moss, P. "Loris Malaguzzi and the Schools of Reggio Emilia A selection of his writings and speeches, 1945-1993." London: Routledge, 2016.
- 森真理 『レッジョ・エミリアからのおくりもの』 フレーベル館、2013年。
- Reggio Children編, 森真理、渡邊耕司訳 『レッジョ・エミリア市自治体の幼児学校と乳児保育所の指針』、レッジョ・チルドレン、2014。
- 佐藤学監修 『驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育』 Access Co. Ltd., 2011年。
- [https://www.nier.go.jp/06\\_jigyou/symposium/sympo\\_h28/files/05\\_muto.pdf](https://www.nier.go.jp/06_jigyou/symposium/sympo_h28/files/05_muto.pdf)
- [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/044/001/shiryo/\\_icsFiles/afie/ldfile/2017/08/28/1394385\\_003.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/044/001/shiryo/_icsFiles/afie/ldfile/2017/08/28/1394385_003.pdf)

## (2) グループワークの進め方

4つのグループに分かれて、意見交換を行いました。

### 1) 自己紹介

- ・グループ内で、簡単な自己紹介

### 2) Q1 こどもの「遊び」って、どんなこと？

- ・個人ワーク：Q1について各人がフセンに書き出す（3分）
- ・グループワーク：フセンを一枚ずつ、模造紙の上に出し合う。似ている意見のフセンは近くに置いていく。（20分）

### 3) Q2 こどもの「遊び」を実現するために、

**どんなことが必要？ どこから始めればいい？**

- ・個人ワーク：Q2について各人がフセンに書き出す（3分）
- ・グループワーク：フセンを一枚ずつ、模造紙の上に出し合う。似ている意見のフセンは近くに置いていく。

### 4) Q3 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ、残しておきたいこと2つ

- ・小さな緑色のシールを一人3コ持ち、個々人が「大切にしたいこと」にシールを貼った。
- ・それを見ながら、「大切にしたいこと」を合意しながら3つに絞った。
- ・シールの数が少ない場合でも「残しておきたいこと」がないかを確認。

### (3) グループワークの記録

#### グループ 1

#### Q1 こどもの「遊び」って、どんなこと？

##### ●ごっこ遊び

→ごっこ遊びをするとその家庭がわかる（子どもが親の口癖や生活を真似する）

- ・何とかごっこ
- ・人形きせかえ
- ・砂場
- ・鬼ごっこ系
- ・変身ごっこ
- ・伝承あそび（コマ、はごいた）
- ・ごっこあそび
- ・おままごと
- ・お人形
- ・昔ながらのあそび
- ・だるまさんがころんだ
- ・花いちもんめ
- ・粘土
- ・竹馬
- ・なわとび
- ・フラフープ
- ・折り紙
- ・塗り絵

##### ●満たされる（怖いことをわざと真似する）

→満たされないこと怖いことの真似をして安心する（嵐の体験をした子どもが真似するなど）

##### ●想像力

・想像力をかき立てられるもの

・好きに作る

・作ったもので遊ぶ

##### ●じゃれあう、子ども同士が触れあう

・友達とたわむれる

##### ●いろんな道具を扱ってもらう

→あぶないものを使う時にルールを知り考えてもらう

- ・最初にハサミを見ると子どもは「あぶない」という。どこがあぶないの？と聞くと「先っぽ」「とんがったところ」などの回答。「どうしてそんなあぶないものが保育園にあるの？」と聞くと、「切りたいから」「ないと困る」などの回答。「どうしたら良い？」と聞くと、「友達に先っぽを向けない」などと回答。それからハサミを使わせると同時に、何人もの子どもがつかってもまず大丈夫。

##### ●どろんこになる

・どろんこ遊び

・草花で遊ぶ

・おいかけっこ

##### ●身体を使う、身体を使った遊び

- ・リズム遊び
- ・触る
- ・友達のつくったものと並べる。
- ・白い紙粘土をにぎって細長くする。それに色をつけて「上」とか「下」とかどこを握るか、どこに色をつけるかでいろんな表現（作品）になる。
- ・そのイメージをオノマトペ（擬態語、ザーザー、すべすべなど）で表現

##### ●見えないものを見る、聞こえないことを聞く

- ・子どもが何と出会っているか、大人がそれを見る

##### ●自然を使った遊び

・自然を使った遊び

・畑いじり

●怖い、やっちゃいけないこと、どこまでやって許されるの？ 痛みで覚える

- ・怖い、やりたい、でも怖い
- ・かくれんぼ
- ・キャッチボール（ボール遊び）
- ・世の中のルールでできるギリギリのこと（ルールを知ること）
- ・ちょっと罪悪感のあること
- ・限界を知ることができるもの

●何で？（はてな）と、驚き！（ビックリマーク）

→大人はどうやったら子どもの心が動くかを知る。大人が用意したものであっても心が動かなければ遊びじゃない

- ・遊び=やりたいこと全部

●みんなで遊ぶ

→兄妹がいていいなと思う。ルールを知る、ルールを守ること、ガマンすることを知る

- ・テレビゲーム
- ・ゲーム、椅子とり、中あて、玉入れ

●良く見ること、描くこと

- ・見る（デッサン、りんご、観察力）。各家庭からりんごをもってくる。クイズで自分の家から持ってきたりんごをあててもらう。最初はあたらない。もう一回よく見るように言う。「どうしたらあたるか？」良くみることしかない。それからりんごを書いてもらう。ただの丸と棒を描く子どもはいない。みるだけ。
- ・ホースから出る水を見ているこども。ただじっと見ている。これがその子どもにとっての遊びになっている。

●好奇心

- ・ロープの間に布をはるだけ。その中で子どもが自分の秘密基地にしたり、よその「家」をのぞきにいたりする。好奇心を満たす遊び。人の家を覗く楽しさ。

## Q2 こどもの「遊び」を実現するために必要なこと

●じっくりやりたいことができる場所

- ・自分のやりたいことができる空間
- ・プレーパーク（小さくても良い）

●まちの環境

- ・子どもをつれて行けるまちの環境（授乳の場所、移動、休める場所・・・）
- ・親の要求を満たせる（子どもつれてでかけられる）→そうすればこどもに返せる
- ・集まりやすい場（行きやすい、通いやすい）
- ・ティールーム（保育園にあると良い）
- ・誰でも立ち寄れる場所づくり（オープンな場所）

●遊ぶためのモノ

- ・何でもあるけど何も無い、凸凹のデザイン
- ・遊ぶための資源の整備（モノ、システム、地域）タダで好きなだけ持っていても良い、

遊ぶためのモノ。美しいもの、企業の協力などで集める。集め、配るシステムが必要。たとえばイタリアでは、きれいな赤のプラスチック→フェーラーリのテールランプだったりする。そういうモノも手に入れて自由に遊びに使える。企業の寄付も必要。そういうシステムがあると良い。

●自然を残し、増やすこと ・自然を増やす ・土、水、木（森）などの自然

●大人の意識次第

- ・すべての大人が子どもの世界に関われると良い。第3の大人（第1「親」、第2「先生」、第3「それ以外の大人」）。大人のゆとり（イメージ力不足）クレームへの対応など
- ・子どものことを語るのは、大人を語ること。

●施設（教育総合センター）をどれだけ柔軟に使いこなせるか

- ・地域で遊び（子育て）を語れる場 ・地域で子育てをするという意識
- ・地域の人が集まってコミュニケーションがとれる（相談できる）
- ・顔が見える→集う場所、機会を

●公園と保育園の一体化 ・公園に保育園を持っていく。

**Q3 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ**

1	何で？びっくり、おどろき！大人がどうやったら子どもの心が動くか。
2	大人の意識次第 →第3の大人をいかに増やすか（子どもにかかわる大人を増やす、子育てという意識）
3	子どもがじっくりやりたいことができる場（プレーパークなど）

**残しておきたいこと2つ**

1	まちに自然を残す、増やすこと
2	集まりやすい場所 大人も子どもをつれて行ける

## グループ 2

### Q1 こどもの「遊び」って、どんなこと？

#### ●そもそも、遊びってなに？

- ・その子がしたいこと、子どもが主体、子ども中心の遊び、子どもから発信したこと（大人は先まわりしたがる）

#### ●自然の中で遊ぶ → 感触五感を刺激する

- ・自然物を取り入れた遊び（虫、光など）
- ・水あそび
- ・虫とり      ・虫や小動物とふれあう
- ・気候：あついさむい、すずしいあたたかい
- ・土にふれる
- ・どろんこ遊び、土をねった泥で何かをつくったり、楽しんだりする      ・どろんこあそび
- ・火のある公園      ・火あそび
- ・笹舟流し      ・オオバコずもう

#### ●体を動かす

##### → ころばない、ケガしない（プレーパークで遊んだ子）

- ・ただひたすら走りまわる
- ・登る、落ちる（高さを知る）
- ・アスレチック
- ・ふわふわの地面
- ・かくれんぼ

#### ●ごっこ遊び

##### → クリエイティブを育む

- ・人形遊び、鬼ごっこ（ドロケー）、お店屋さんごっこ、廃材を使ったみたてあそび（使えないものが使えるようになる）、ぬり絵

#### ●アート

- ・カラフル粘土、普段見ない色を使う
- ・壁に絵を描きまくれる、手型足型、くぎのこぎりで製作、糸のこ（サポートつき）で製作

#### ●グローバル

##### → 世界を広げる

- ・多人種のあかちゃん人形がいるおままごと

## ●勝負する

### → 真剣になる

- ・くぎさし
- ・こま遊び
- ・めんこ（投げる力がつく）

## ●科学

- ・室内で水遊び

## Q2 こどもの「遊び」を実現するために必要なこと

### ●大人も遊ぶ

- ・一緒に遊ぶ、大人は携帯電話禁止
- ・親も遊び（好きなことをする）
- ・大人が遊びの楽しさを知り、教える（はじめは一緒に活動する）
- ・結果を求めすぎている
- ・大人の意識改革、大人も遊ぶ
- ・「来てよかった」と親が思えること

### ●遊びの大切さを知る

- ・どんな能力が鍛えられるかを明確に伝える
- ・保護者にこうした遊びの大切さを啓発する
- ・現在活躍している人の「幼少期の遊び」をインタビュー

### ●思いきり遊べる場

- ・禁止が少ない場所
- ・思い切り遊べる場と時間をつくる
- ・（プレーパークでのケガ：年25万人遊びに来る中で、病院に行くのは25件）

### ●関係者が学ぶ

- ・幼稚園や保育園の先生が遊びを学ぶ

### ●地域異年齢のつながり

- ・異年齢でコミュニケーションがとれることが大切

### ●ワクワクな場所

- ・教育総合センターは、暗い雰囲気はダメ、おしゃれな雰囲気、元気になる色使いなど
- ・教育総合センターは「こんな遊びしたいよね！」と話し合えたり、心に残る遊びができた  
りする場所
- ・人工物ではなく、自然な環境。土、雑草など

### ●まち/道

- ・まちで子どもが遊べる状況をつくる
- ・「道あそび（遊戯道路）」でプレゼンテーション
- ・道に絵を描いて、それを掃除する。掃除も遊びになる。

### Q3 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

- |                                |
|--------------------------------|
| 1 100人のこどもがいたら、100通りのしたいことがある  |
| 2 大人の役割は、「見守る」か「一緒に遊ぶ」（携帯電話禁止） |
| 3 遊べる場と時間をつくる                  |

### 残しておきたいこと2つ

- |                            |
|----------------------------|
| 1 乳幼児から老人まで集える、異年齢のふれあいが大切 |
| 2 ワクワク、ドキドキ、キラキラ、オープン、おしゃれ |

## グループ3

### Q1 こどもの「遊び」って、どんなこと？

#### どんな遊び？

##### ●室内

- ・何かをつくって遊ぶ→つくったもので遊ぶ
- ・ままごと（ごっこあそび）
- ・中遊び（ままごと、まねっこ、たたかい）

##### ●自然

- ・外遊び →公園、家の前、〇〇ごっこ、探検、砂あそび
- ・散歩先で遊ぶ
- ・昔は川や自然が豊富で冒険ができたエピソード多数。
- ・電車の線路で釘をつぶす、弓矢をつくる、ベーゴマをけずって強くして勝負するなど「じぶんたちでつくる」ことをしていた。

##### ●テクノロジー

- ・こどもへのスマホ
- ・与えられた遊びになっている

##### ●遊びの良い点は？

- 関わりがある遊び、仲間とできることが大事
- 遊びそのものが主体性があるもの
- ケガをしなくなった→危険予知能力を高める
- 犯罪に巻き込まれない危険回避能力

他、

- ・おとながみてるとおもしろくなさそうなことでもこどもは楽しそう
- ・（関わりがないという意見に対して）あいさつできる子は多い
- ・（スマホばかりに対して）ひとりになってしまうのがよくない

### Q2 こどもの「遊び」を実現するために必要なこと

#### ●どんなことが必要？（主にできてない理由）

- ・親が忙しい
- ・あいさつも少ない、会わない
- ・ご近所の声大きい
- ・道路が使いなくなった

- ・遊び方が変化し、規制が多い
- ・世田谷のこどもの増加に施設などが対応できてない
- ・遊びに工夫が少なくなった
- ・自然と触れる事が少なくなった
- ・おとながスマホ

### どこから始めればいい？

#### ●こどもの予算を増やす

#### ●だれでも自由に入出りできる広場・居場所

- ・落書きができるスペース
- ・いたずらができる
- ・（自由な発想が）デザインの仕事にもつながるかも？
- ・お店ごっこ、だがしやさん

→児童館・広場でできない遊びができる

#### ●「自然環境」をつくる・ふやす

- ・人工的でもよいから、自然があるとよい
- ・遊歩道ならあそべる

#### ●雨の日でも室内で公園みたいに過ごせる

#### ●防災教育

- ・乳幼児に対しても自分で身を守れる遊び
- ・火にふれる
- ・自分たちでつくるBBQやたきび、やきいも
- ・野菜を育てる

### Q3 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

1	主体性を尊重し、仲間づくりができる環境をととのえる
2	自然とふれあえる環境
3	自由な交流の場

### 残しておきたいこと2つ

1	こどもの予算をもっと増やす
2	自分で自分の身を守れる能力を育む

## グループ4

### Q1 こどもの「遊び」って、どんなこと？

#### ●自然、公園、四季を感じる

- ・子どもでも火と水をつかえる遊び
- ・思いっきりハイハイ、探索活動
- ・ねこのあとをつける遊び
- ・海・川・山の自然を利用して遊ぶ。遊具なし
- ・まちのなかのおいしいものさがし（ざくろ、びわ、どどめ・・・）
- ・どろんこ遊び・砂場
- ・公園で身体を使った遊び ・公園で散歩・散策
- ・木の実ひろいや植物を使った遊び
- ・おしろい花、しろつめ草などで遊ぶ
- ・四季を感じながら遊ぶ
- ・春・ ・桜の花びらキャッチ／夏・ ・水あそび／秋・ ・落ち葉ひろい／冬・ ・スキー

#### ●ごっこ

- ・おにごっこ ・ままごと等ごっこ遊び

#### ●お絵描き

- ・お絵かき。外でもチョークや枝、石で描く ・お絵かきしながらお話も作る

#### ●身のまわりのもの

- ・身の回りにあるものを使って遊ぶ（ハンガー、空き箱、ペットボトル）

#### ●伝承遊び

- ・花いちもんめ、かごめかごめ、だるまさんが転んだ

#### ●みち・路地

- ・みちあそび、路地裏あそび

### Q2 こどもの「遊び」を実現するために必要なこと

#### ●異年齢の子どもと遊んで距離感を学ぶ

- ・年上も年下も異年齢で一緒に外遊びをしていたことは「非認知能力」につながったかも
- ・縦割りで遊ぶと上の子が下の子にやさしくする
- ・小さい子がいるとルールが変わったりする
- ・戦いごっこは人との距離感がつかめる

### ●静かにしている子ども、心は動いている

- ・「静かに過ごしている子ども、心は動いている」と言われた
- ・その子のリズムで待つことが大事なのではないか
- ・自分で考えて遊ぶ子どもを育てたい
- ・子どものリズムに大人が合わせると主体性が見えてくるのではないか
- ・“待つ”子育ては1人では苦しいので、預けあいでお互いの子を“待つ子育て”してみると良い
- ・大人が介入しない遊びをつくる

### ●安全面だけを重視しない

- ・公園の禁止が多すぎる
- ・公園の注意書きに「公園でふざけてはいけません」とあった。なんだかおかしい。
- ・遊びが許可制になっている。与えられたものだけで遊ぶ子ども多い
- ・先回り育児をすることが多い。それを評価することも多い
- ・園で水遊びをするのは注意が多くて大変
- ・赤ちゃんを止める親になっている
- ・「安全面の重視」が子育てを束縛している
- ・乳幼児から身体を使って遊ぶことで、対処方法を体で知ることが大切
- ・大人が自分が小さいころした遊びを思い出してほしい

### ●ルールのない遊び・答えのない遊びを

- ・学童をハシゴしたり、習い事が多いので子どもが忙しすぎる
- ・学童を学校の外に作れないか
- ・通学路を楽しむとか ・寄り道できるといろいろな面白いことが発見できる
- ・ふざけても良い場所を増やす
- ・遊び込むことが身を守ることにつながる
- ・子ども社会を子どもが作る
- ・子どもの権利を守って、子どもの声を聞く
- ・ルールのない遊びをプレーパーク以外でもできると良い
- ・答えのない遊びを楽しむ
- ・お父さんも育ちあう、大人が面白がることが大切
- ・遊びで子どもを知って大人が学ぶ

### ●地域で知り合いになって一緒に育てる

- ・名前を知っている子どもはうるさいと思わない
- ・知り合いには寛容になれる
- ・知り合いになるために挨拶をする

- ・地域と一緒に子どもを育てる
- ・親が地域コミュニティへもっと参加する
- ・街の人同士のかかわりが大切=住民自治ではないか

### Q3 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

1	子どものリズムに大人が合わせて、子どもの声を聞く
2	身体を使って遊び込むことで、様々な対処方法を知る
3	子ども社会を子どもがつくる!!

### 残しておきたいこと2つ

1	地域の理解で、子どもの主体的な遊びを守る
2	四季を感じながら遊ぶ環境

## (4) 投票

ひとつの結論を出すための投票ではなく、今後に向けて参加者が「これは大切」と思う意見にシールを貼ってもらいました（一人3コ）。

### グループ1

#### 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

1 何で？びっくり、おどろき！大人がどうやったら子どもの心が動くか。	6
2 大人の意識次第 →第3の大人をいかに増やすか（子どもにかかわる大人を増やす、地域で子育てという意識）	8
3 子どもがじっくりやりたいことができる場（プレーパークなど）	3

#### 残しておきたいこと2つ

1 まちに自然を残す、増やすこと	1
2 集まりやすい場所 大人も子どもをつれて行ける	2

### グループ2

#### 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

1 100人のこどもがいたら、100通りのしたいことがある	10
2 大人の役割は、「見守る」か「一緒に遊ぶ」（携帯電話禁止）	6
3 遊べる場と時間をつくる	0

#### 残しておきたいこと2つ

1 乳幼児から老人まで集える、異年齢のふれあいが大切	5
2 ワクワク、ドキドキ、キラキラ、オープン、おしゃれ	1

### グループ3

#### 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

1 主体性を尊重し、仲間づくりができる環境をととのえる	1
2 自然とふれあえる環境	2
3 自由な交流の場	0

#### 残しておきたいこと2つ

1 こどもの予算をもっと増やす	1 2
2 自分で自分の身を守る能力を育む	4

### グループ4

#### 世田谷の遊びで大切にしたいこと3つ

1 子どものリズムに大人が合わせて、子どもの声を聞く	3
2 身体を使って遊び込むことで、様々な対処方法を知る	6
3 子ども社会を子どもがつくる!!	2

#### 残しておきたいこと2つ

1 地域の理解で、子どもの主体的な遊びを守る	4
2 四季を感じながら遊ぶ環境	2

## (5) 講評

鶴川女子短期大学国際こども教育学科

森 眞理 教授

### [ワークショップから導き出された大切なこと！]

お一人お一人の表情がどんどん変わって行く姿を見ていて、ここの小学校の子どもたちがこの場に来れば良かったのに、と思っています。

今日のワークショップで皆さんが行ったことは、基調講演でお話した乳幼児教育で大切にしたい事、いわゆる今までの「暗記型」ではなく、「主体的で対話的で深い学び」をされたと思っています。まさに活用型、展開型、プロセス主義を大人が実際に行っていました。

それから嬉しかったのが、発表の時に「大切にしたいこと」で、グループ2が「100人のこどもがいたら100通りのしたいことがある」を挙げたことですね。

配布資料の中にあります、「でも、百はある」を皆さんと一緒に読みたいと思います。

**でも、百はある**

- ・子どもには 百とありある。  
子どもには  
百のことば 百の手 百の考え 百の考え方 遊び方や話し方  
百いつでも百の聞き方 驚き方 愛し方 歌ったり
- 理解するのに 百の喜び  
発見するのに 百の世界  
発明するのに 百の世界  
夢見るのに 百の世界がある  
子どもには 百のことばがある  
…それからもっともっと…
- ・けれど九十九は奪われる  
学校や文化が  
語とからだを バラバラにする
- ・そして子どもに言う  
手を使わずに考えなさい  
語を使わずにやりなさい  
話さずに聞きなさい  
ふさげずに理解しなさい  
愛したり驚いたりば 復活祭とクリスマスだけ
- ・そして子どもに言う  
目の前にある世界を発見しなさい  
そして百のうち 九十九を奪ってしまう
- そして子どもにいう  
遊びと仕事  
現実と空想  
科学と想像  
空と大地  
道理と夢は  
一緒にはならないものだ
- つまり百なんか無いという
- 子どもはいう  
**でも 百はある**
- ・ ローリス・マラグッツィ  
・ (田辺敬子 和訳)

出展「子どもたちの100の言葉—イタリア/レッジョ・エミリア市の幼児教育実践記録」

(学習研究社)

まさにここでないでしょうか。100のことばを持つ世田谷区を目指してほしいなと思いました。

## [本物に出会うこと]

近年、私たちは、見えないというところにとっても不安感を抱いているのではないのでしょうか。大人も見えないし、子どもも見えないということ。レッジョ・エミリアは、まさにその反対です。例えば、子どもの姿が見えるものとしてドキュメンテーションセンターがあります。そこでは乳幼児の保育所、幼児学校の1960年代からのすべてのプロジェクトを誰が行っても見るすることができます。

先ほど発表の中でもありました、「おしゃれ」。これは、本物に出会うということです。レッジョ・エミリアで子どもがお父さんと道を歩いているとショーウィンドウを見て、「この色はどうかね」と話しているんです。それから夫婦が洋服屋さんの前で止まって「あなたはこれがいいわね」って子どもの前で話しているんです。そういう姿を子どもが見て、大人っていいな、面白いなと感じる。そういうことが日常的にあるんです。するとお店の人も本物を見せるような文化になります。

20年前、アメリカの研究者が日本に来た時に、「日本の幼稚園は最後の楽園だ」と言っていました。なぜかというと日本の幼稚園は中が見えるから。アメリカではほとんどドアが閉まっていて見えない。ところが今は日本でも見えないと思いませんか？レッジョ・エミリアは公園の中に幼児学校があって、写真は撮ってはだめと守るべきところは守りますが、子どもたちが見えます。

例えば、本物に出会うということでは、レッジョ・エミリアの幼児学校の実践では、「色を塗った時、あなたにとっての緑ってどんな緑なの？」と言うと子どもは考えるんです。私にとっての緑ってどういう緑だろう、そういった保育をしているんです。それを他の子どもたちもどんな緑にするのかなと見ていて学びあっているんです。

また、面白がること。例えば、椅子を作っているときに、「ふざけて座っちゃう椅子」を作っているんです。大人はいつもちゃんと座りなさいと言うけれど、ふざけて座る椅子ってなんだろう。そういう面白がることは一緒にやっていて大人も面白がり、遊び込みます。

木工にしても本物に出会うのに、子ども用のカナヅチとか渡してないんです。危ないことも子どもが真剣にするので釘もゆっくりと打っています。

レッジョ・エミリアがただ表層的なアート、芸術的ではなくて「生きてる」というところがアートであり、よりよく生きようと探究するところは、まさに100人の子どもがいたら100通りのこと、100のことばがあることです。こういうところに世田谷区にも大きな希望を持っています。

ありがとうございました。

平成 30 年度

遊びから学ぼうワークショップ ー開催結果ー

平成 3 0 年 1 0 月

世田谷区教育委員会事務局 新教育センター整備担当課

<平成 33 年度開設予定 教育総合センターの詳細はこちら>

<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/162/805/d00162165.html>